紙芝居『囲いやまのポコ』

囲いやま森の会

イラスト･シナリオ：赤石千佳

１）

ここは「囲いやまの森」

緑の旗が目印の、小さな森です。

そんな囲いやまに ある日、誰かやってきたようです。

２）

半分開く
（ポコだけ表示）
ケラのところで全開

ポコ「あの一、ぼく、隣り町の林からきました、
　　ポコっていいます。誰かいませんか？」
　＊ポコがいうと、上の方から返事が聞こえました。
ケラ「きみ、ここじゃあ、見ない顔だね。」
　＊見上げてみると、小さな鳥が木を突ついていていました。
　（これは何ていうか鳥かわかるかな？
　　ヒント：木を突つきます。
　　答えはキツツキの仲間：コゲラです。特徴はこの縞模様です）
　　小鳥は言います。
ケラ「ぼくの名前は、ケラ。ポコは何しにきたの？」
ポコ「新しい住みかを探しているんだ。この森はどんなところ？」
ケラ「そうだなぁ、いいところだよ。
　　でも、足ながのっぽがくるからなぁ……。（意味深に）」
　＊そこへ、何かが近づいてくる音がします。
　　（足音：ドスン、ドスン～）
ケラ「きた！　足ながのっぽだ！　隠れろ！」
　＊二人は慌てて、藪の中に隠れました。

３）

＊音はだんだん近付いてきます。
（足踏みをして音をたてる）⇒（あらわになる足）
＊ポコは小さな声で、ケラにいいます。

半分開く
（ポコ・ケラだけ表示）
足踏みのところで全開

ポコ「なんて大きい！　あんな生き物見たことない！」
＊ケラも、ひそひそといいます。
ケラ「足ながのっぽは時々やってきて、木を動かしたり、
何かよく分らない物を作っていくんだよ。」
＊ポコは、初めて見る足ながのっぽのことが、知りたくなりました。
ポコ「よし、付いていってみよう！」
＊ケラは怖がりましたが、
本当はケラも知りたくてしょうがないのです。
二人でこっそり、足ながのっぽに付いていってみました。

４）

＊足ながのっぽは、森の広場に向かっていきます。

そこには、足ながのっぽが沢山いて

オカリナやコカリナで、楽しそうに音楽会をしていました。

ポコとケラは、草陰からそっとみています。

ポコ「ケラ、足ながのっぽって、きれいな鳴き声だね!

それに小さいのから大きいの、いろんなのがいる。」

ケラ「あれだけ大きいと僕らなんて一飲みで食べられちゃうよ。

ぼくは飛んで逃げられるけど、ポコは危ないかもしれないよ。」

＊ポコはすこし考えて、言いました。

ポコ「あれくらい大きくなれたら食べられなくてすむかもしれない。

ぼく、練習してみる。」

５）

＊ポコは離れたところへいって、
大きな緑の葉っぱを頭の上に乗せると・・・

ポコ「そいやさ、こらさ、
どっこいしょ～！」

＊なんと！ポコは葉っぱで姿を変えてみせる”バケガク”が
使えるのです。
ケラは、驚きました。

少し開く
（ポコだけ表示）
バケたところで全開

ケラ「すごい！ それなら、足ながのっぽの中にいても、
ばれないかもしれないよ！」

＊ポコは言いました。

ポコ「それじゃあ、本当にばれないか、やってみよう！」

６）

＊二人が戻ると、
　足ながのっぽは、木に登ったり、
　ロープにぶら下がって遊んでいました。
　ポコがこっそりまざってみても、誰も気づいていません。

ケラ「やった！成功だ！」

＊木の上で見ていたケラは、喜びました。
　すると、ひとりの足ながのっぽがポコに話しかけます。

足ながのっぽ
「きみ、おじさんがブランコ作ったから、遊んでみてごらん。」

＊ポコはブランコに乗ってみました。

７）

＊ぶーーーーーん　　ぶーーーーーん

ポコが気にいって、どんどんこぐと、

ひゅ～～～～～

なんと、バケガクの葉っぱが飛んでいってしまいました。

耳の形も、しっぽも、もとの姿に戻っていきます。

ポコ「ああ！バケガクがとれちゃう！」

＊そこへ、ぴゅーーーーーーっ、

ケラがすばやく飛びおりてきました。

８）

＊ケラが葉っぱを拾おうとしますが、

ケラ「あれ？どれがバケガクの葉っぱだっけ？！」

＊（急がないとポコが元の姿に戻ってしまいます、
誰か教えてあげて！）

半分開く
（テントウムシまで表示）
後半に全開

ケラ「あ、そっかこれか！」

＊ケラはバケガクの葉っぱをポコの頭に乗せました。
とれてきたバケガクはぴたっと止まり、
二人は急いで森の奥へ逃げ隠れました。

９）

ポコ「あ～あぶなかった！　ケラ、ありがとう！」
ケラ「さっき、てんとう虫さんが教えてくれたんだ、
　　あとでお礼いわなきゃ！」
　＊（あれれ、さっき皆が教えてくれたのをてんとう虫さんと
　　間違えてるみたい。）
　　ポコはいいました。
ポコ「足ながのっぽって、ブランコってやつを作ったり、
　　不思議な生き物だね。」
　＊ケラは木に生えていたキノコをとって、ポコにあげました。
ケラ「このきのこも、足ながのっぽが作ったみたいなんだ。
　　怖いんだか、親切なんだかわからないよ。
　　それにしても、ポコのバケガク 大成功だったね！」
　＊ふたりはおしゃべりをしながらお腹いっぱい食べて、
　　日が沈んできた頃、茂みの中で眠りました。

10)

＊そして夜になり、あやしく笑う光がポコを起こしました。

「おいでよ、おいで。面白いこと　始まるよ

光の道を　たどっておいで」

＊光の道は、森の奥の、ひときわ明るいところへ

続いているようです。

ケラはぐっすりと寝てしまっています。

ポコは、ひとりだけで、光の道をたどっていきました。

11）

＊森の奥には足ながのっぽたちがいました。

ポコはバケガクを使って、傍にいってみると、

広げられた白い布に小さな虫たちが集まってきています。

ポコ「あの一、何、しているんですか？」

＊足ながのっぽは応えました。

足ながのっぽ

「夜に隠れている虫を観察するんだよ。その虫は光が好きで

白い布は光りやすいから、いい集まり場所になるんだ。

ほら、こんなふうにライトをあてると・・・」

12)

ポコ「ひゃーーーーーーーー！！！」

＊びっくりしたポコは森の奥へと逃げました。

足ながのっぽ

「ありゃー、やりすぎちゃったかなぁ・・・・

ごめんね～！」

＊足ながのっぽは、ポコに向かって言いましたが、

あっという間に、

ポコの姿は、暗い夜の森に見えなくなっていました。

13)

＊それからしばらく、強い大風の日が続きました。

ごうごう、ぎしぎし、と音を立てる森は危ないのです。

ポコとケラは、やぶに囲まれた穴ぐらで嵐がすぎるのを待ちました。

そして、風の音がやみ、静かになった朝・・・

14)

＊ふたりが穴ぐらから出ると、

　倒れた木や、折れた枝で、森は傷ついていました。

ポコ「これじゃ誰も住めないよ・・・。」

ケラ「誰も森にこなくなっちゃうよーーーー！」

二人は悲しく泣きました。

すると、向こうから足音が聞こえました。

（足音～）

15)

足ながのっぽたちが、倒れかかった木を支え、

飛んできたゴミを集めて、森を手当しています。

ポコはバケガクを使って、足ながのっぽを手伝い、

ケラも、折れた枝を運びます。

皆で一生懸命、働きました。

16)

＊すると、暖かい光が入り、明るい囲いやまの森が戻ってきました。
皆 嬉しくなって、喜び、歌いました。

よかった よかった 囲いやま
タヌキも 小鳥も 虫も お花も
みんなが喜ぶ 楽しい森だ
みんな仲良し うれしいな

＊そして、一人の足ながのっぽが言いました。

足ながのっぽ
「そうだ、がんばった記念に、みんなで写真を撮りましょう。
はい、こっち向いてー」

＊ポコが言われた方へ向くと・・・

17)

＊ぴかっ（フラッシュ）

「わひゃーーーーーーーー！！！」

＊カメラの光にびっくりして、

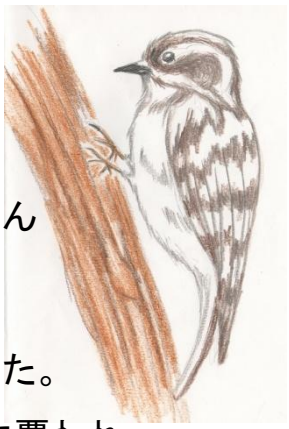
ポコは また、逃げていってしまいました。

次はいつ、来るかな？

半分開く
（カメラだけ表示）
逃げるところで全開

18)

＊おしまい



〇紙芝居のイラストを描いて、シナリオを作ってくれた方：赤石千佳さん

[会の紹介]

この会のマスコットキャラクターは「コゲラ」で、タヌキも見かけました。この森の整備を始めてから、9 年になります。最初は背丈より高いササに覆われて、暗い森でしたが、通路や広場を整備して、清掃や下草刈りをしています。森はウグイスやコジュケイ、コゲラやシジュウカラなど、多くの生き物の生活の場となっています。夏には家族で参加する「森の楽校」、秋にはオカリナ・コカリナの音楽会、秋の虫の音を聴く会や夜の虫観察会（ライトトラップ）など、子どもたちの森体験を展開しています。都市に残された貴重な自然環境を守りつつ、市民に愛される森をめざしてゆきたいと考えています。